

⑫ 公開特許公報(A) 平2-121675

⑬ Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)5月9日

A 61 N 5/02

8932-4C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 温熱治療用プローブ

⑯ 特 願 昭63-275632

⑰ 出 願 昭63(1988)10月31日

⑱ 発 明 者 稲 葉 誠 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリンパス光学工業株式会社内

⑱ 発 明 者 石 原 康 一 郎 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリンパス光学工業株式会社内

⑱ 発 明 者 塚 谷 隆 志 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリンパス光学工業株式会社内

⑲ 出 願 人 オリンパス光学工業株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号

⑳ 代 理 人 弁理士 坪 井 淳 外2名

最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

温熱治療用プローブ

2. 特許請求の範囲

体腔内の患部を温熱治療する温熱治療用プローブにおいて、体腔内に挿入するプローブ本体と、このプローブ本体内にその先端から突没自在に設けられ露出して被加温対象部位に刺通する複数の加温用針状電極と、この針状電極を露出する操作手段とからなり、プローブ本体を体腔内に挿入し、その各針状電極を露出し被加温対象部位に刺通して加温するようにしたことを特徴とする温熱治療用プローブ。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は例えば前立腺肥大部等を温熱治療する温熱治療用プローブに関する。

〔従来の技術〕

近年、前立腺肥大症の治療を温熱で行なう方法が考えられている。これは前立腺を43℃前

後で加温すると、その前立腺肥大症が治癒することを利用するものである。

そして、従来は周囲にマイクロ波用アンテナを設けたカテーテルを尿道に挿入してそのアンテナからマイクロ波を照射し、加温治療していた。

また、特開昭62-292173号公報で知れるようにチューブ体の中間一部の外周に金属パイプなどの導電体を設け、これにより加温用電界を集中させるようにしたものが提案されている。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、上記加温方式はいずれも被加温対象の部位、たとえば前立腺の表面にまたはその近傍に、マイクロ波用アンテナまたは加温用電極を設置するのみであるから、その前立腺等の患部を全体的に均一に加温することはできない。また、全体的に確実かつ効率よく加温することができなかった。

本発明は上記課題に着目してなされたもので、その目的とするところは被加温対象部を全体的に均一で効率よく確実に加温することができる温熱